

大分ジェイリースFC「Jリーグ目指さず地域貢献」 悲願のJFL昇格

2026/02/06 04:50 日本経済新聞電子版 1100文字

サッカーチーム「ジェイリースFC」（大分市）が悲願の日本フットボールリーグ（JFL）昇格を果たし、今季はアマチュア最高峰の舞台で戦う。同FCはJリーグ参入を目指さない実業団チームとして「サッカーをツールにした地域貢献」を理念に掲げる。同FC会長で家賃保証サービス大手のジェイリースの中島社長にこれまでの経緯や目標を聞いた。

——2018年に創部したきっかけは。

「ジェイリースは18年に東証1部に上場した。大分に育ててもらった企業であり、サッカーが盛んな大分で社会の公器として恩返しできることはないかと考え、サッカーというツールを使って地域貢献や地域活性化をしようと思った」

「当初からJリーグ参入ではなく、地域に根ざしてJFLで活躍する実業団チームを目指した。サッカーは他のスポーツに比べて選手の寿命が短い。選手が大分で一日でも長くサッカーをできる受け皿をつくり、引退後のセカンドキャリアも支援したかった」

——創部から8年で悲願の昇格となりました。

「ようやくという感じだ。24年はあと一步でJFL昇格を逃して悔しい思いをした」

「経験豊富なベテランからスタミナのある若手まで幅広い年代でチームが構成できた。一つ一つのプレーの基準が上がり、走り負けないチームになった。ファンも増え、多くの熱い声援をもらったことも大きい。社員による面白い実況が聞けるチームのユーチューブ番組も人気が出ている」

——サッカークラブを法人化した狙いは。

「会社の一部門だったが、25年4月に子会社として法人化した。意思決定のスピードを上げたかった。今後は事業拡大や経営の透明化、収益化を図っていく」

——社員選手は何人いますか。

「現在は7人で4月に入り、11人になる。基本的に午前中はサッカーの練習、午後は会社で仕事をする。サッカーと仕事のスキルの両方を得られるメリットがある」

——どのような地域活動をしていますか。

「高齢者施設で選手がボールを使った簡単なトレーニングを指導したり、保育園や小学校などでのサッカー教室を開いたりしている。清掃活動などを含め年100回近くのボランティア活動を行っている」

——今後の目標は。

「3年以内にJFLで優勝することとホーム戦の平均入場者数を2000人に増やすこと。JFLのヴェルスパ大分との『大分ダービー』で大分を盛り上げていく」

——本業の家賃保証サービスは好調が続いています。

「26年3月期は過去最高を更新する210億円の売り上げを見込んでいる。1月には大分市中心部の土地を取得した。新本社を建設し、ハードとソフトの両面で女性が大分市内で最も働きやすい職場環境にしたい」

（聞き手は仲村宗則）

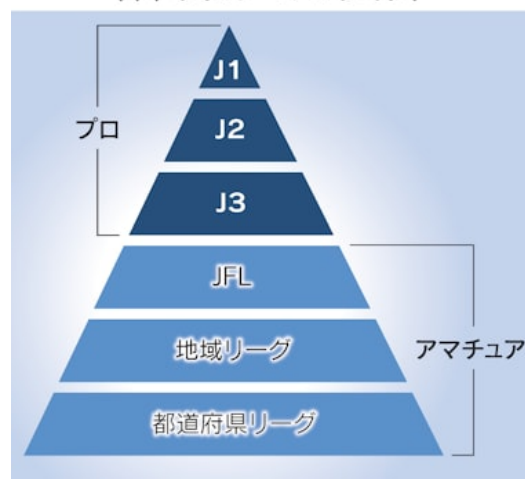
【関連記事】

- ・家賃保証のジェイリース、大分市中心部に土地取得 新本社建設へ
- ・ジェイリース、高齢者らの賃貸入居支援拡大 全都道府県で法人指定へ
- ・三菱地所、家賃保証のジェイリースとスマートホームサービス拡販



日本フットボールリーグ（JFL）への昇格を決めたジェイリースFCのメンバーら＝同FC提供

日本サッカーのピラミッド



ジェイリース社長でジェイリースFC会長の中島氏

許諾番号NK001940 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.